

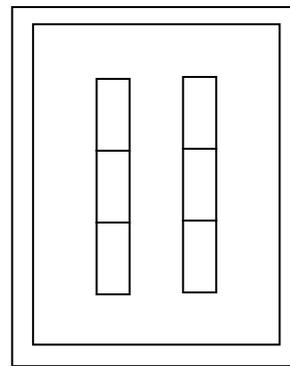
弱電機器収納キャビネットの選定(電話端子盤)

この技術資料は、汎用で使用される電話端子板および集合保安器を収納するキャビネットのサイズについて、指針値をまとめた資料です。

1. 電話端子盤

端子板対数	キャビネット外形寸法(mm)		
	ヨコ	タテ	フカサ
10	250	350	100
20	250	450	100
30	250	600	100
40	400	500	100
60	400	600	100
80	400	700	100
100	400	850	100
150	500	850	100
200	700	900	120
250	800	900	120
300	900	900	150

端子板サイズ：53×115 mm

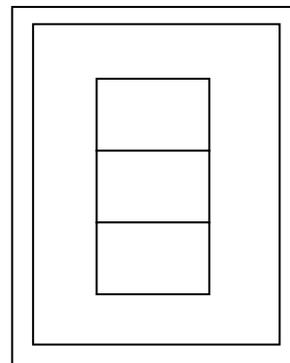


対数60の場合

2. MDF (保安器のみ)

保安器収納可能回線数	キャビネット外形寸法(mm)		
	ヨコ	タテ	フカサ
10	300	400	120
20	400	500	120
30	400	600	120
40	600	500	120
50	600	600	120

保安器サイズ：160×115 mm (10回線用)



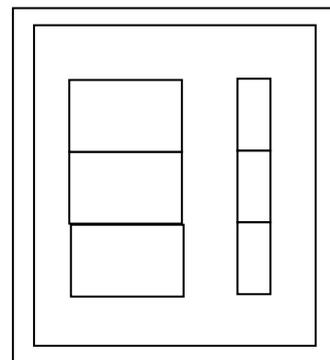
保安器回線数30の場合

3. MDF (端子板、保安器収納)

端子板対数	保安器収納可能回	キャビネット外形寸法(mm)		
		ヨコ	タテ	フカサ
10	10	450	400	120
30	30	500	600	120
50	50	500	900	120
		1000	600	120
100	100	600	1600	120
		1000	900	120

端子板サイズ：53×115 mm

保安器サイズ：160×115 mm (10回線用)



保安器回線数30
端子板対数30の場合

弱電機器収納キャビネット 解説

はじめに

弱電機器収納用キャビネットにおいて、電話端子板及び保安器については、種類も多岐にわたり、国内品だけでなく、海外のいろいろなタイプが使用されてきています。サイズ選定に当たっては、特に取り決めも無く、各設計者がそれぞれの経験から算出されているのが現状であり、業界である程度の取り決めが必要でした。今回の資料は、主にNTTで使用されている宅内引き込み端子盤に使用されている端子板及び保安器について資料をまとめました。

1. 端子板

従来はねじ式端子板は長い間国内で使用されてきました。現在は同様のサイズで、差込式の端子板も使用されてきています。名称は従来はねじ式及び半田式はA型、B型と呼称され、差込式は10L端子台と呼ばれております。

高密度の端子盤においては、海外製品の普及も進んできております。

2. 保安器

従来は、ねじ式の6号保安器(5回線)が使用されておりましたが、順次差し込み式のビル用集合保安器(10回線)に変わってきております。

MDF(局線端子盤)は、端子板に保安器をあわせて設けた仕様である。保安器は分散設置(別のキャビネットに一部収納する)する方法が取られていたが、最近はそのような仕様は少ないため資料からは除外した。